

## 第3群の座長をつとめて

岩田和美  
(金沢市立病院)

第15回石川看護研究会は、3群に分かれており、各群1名の座長で開催されました。第1群は富澤、第2群は前田、第3群は岩田が座長を担当致しました。第3群は3席の演題発表がありました。

第1席公立能登総合病院、花田真維子さんは、麻酔科外来における術前看護のあり方を、患者満足度調査を行い、実態を把握されました。その上で、得点の低かった診療待ち時間を取り上げ、パンフレットを用い、聴覚だけでなく、視覚に訴えることにより、待ち時間を有効利用し、有意に満足度を高めました。又、患者の医療従事者に対する満足度は、高値であることを示されました。

第2席石川県立中央病院、長曾佳代子さんは、糖尿病患者の教育指導において、看護計画への患者参加を試み、看護婦の態度や行動について、患者の期待度と満足度を調査しました。項目別にみた平均は、参加群が全体に期待・満足共に高くなっていました。領域別にみると、信頼関係領域・技術的専門的領域・教育関連領域の順に参加群の方

が高くなっていました。

第3席金沢医科大学病院、松田琴美さんは、虚血性心疾患患者の療養行動の実態を、特定の項目に絞らず、生活全体を視点として、調査・分析しました。療養生活の実態として、実践できている場合はどの内容についても出来ており、実践できていない場合はいずれも出来ないことが明らかになりました。特定の項目によって全体が影響されていないことより、出来ない患者のセルフケア確立が、今後の指導方法を改良していくうえでの方向性であることを示唆しました。

今回、座長という重要な役割を担わせて頂き、貴重な体験となりました。本当に有り難うございました。限られた時間の中、皆様より活発な御質問を頂き、また、演題発表者の方々の的確なお答えに、進行役として感謝しています。最後になりましたが、島田啓子先生の講評を参考に、演題発表者の皆様が、今後益々研究を深められることをお祈りいたします。